

# 高教組速報

2022年度

第1号

2022年4月28日

文責 佐藤真一郎

長崎高教組 長崎市中川2丁目2-5 TEL (095) 827-5882

**22春闘教育長交渉** 長時間労働是正、業務削減、教員不足について教育長の見解を求めました。

中崎新教育長「現場の声やいろいろな課題を乗り越える提案をいただきたい」

「一つ増やすなら一つ減らす」を校長会で示唆

4月27日春闘教育長交渉を行いました。交渉には、高教組本部から鍛冶委員長以下、執行部6人と、佐中夜間から當山分会長が参加し、県教委は、中崎教育長、高稲教職員課長、初村人事管理監、他5人が対応しました。

## 高教組の長年の要求に押され公費実現

高教組はエアコン設置とその利用料金が保護者負担になっており、定時制や小規模校には、不平等感があることを指摘し、公費負担とするように、2017年から要求してきました。このことについて、県教委は「2022年度末までに定時制・通信制を含む県立高校の**普通教室は空調設備を設置完了し**、すでにPTAで普通教室に設置している高校でも、2023年度から、**公費による稼働を予定している**」と答えました。

高教組が現場の声をまとめ、組合として要求し、交渉を続けたことで、県議会も取り上げ、実現することになりました。

## 長時間労働是正 一つ増やすなら一つ減らす

高教組は、長時間労働是正に資する業務削減について教育長の見解を尋ねました。教育長は「長時間労働が教職員の成り手不足にもつながり、悪循環になっていると認識している。方策の一つは働き方改革で、職員は企画するのは手馴れているが、**業務の見直し、やめる勇気が職員には必要。校長会では学校管理職のマネジメントとして、『スクラップ&ビルド』を伝えた**。また、県教委としても、大分県竹田市が義務教育で教師の業務負担となっていた「家庭訪問」を廃止した。本県の夏季合宿廃止の方針のように、こういったものがあるのかはわからないが、保護者のご意見などを聞けば、全部が賛成ではないのかもしれない。しかし、**これはやめてみようじゃないかという提案も必要だ**と  
思っている」と答え、学校内に求めることと県教委が試みることを明確化しました。

もう一つは業務の分業化とし、各地で導入が議論されているリスク管理や報酬の問題などのシステム整備の上で『地域部活動』でのアウトソーシングの考えを示唆し、国の施策の踏襲にとどまりました。

## 高教組「学校に丸投げでなく、県全体にかかる業務削減を県教委の責任でとるべき」

高教組は「夏季合宿廃止以降は、業務削減が学校現場に丸投げされている中で、教育長の言葉は励みになるが、管理職から学校現場に入ると、なかなか減らすものがない、かえって増えている。そこにジレンマがあるので、高教組としては、県教育委員会の責任で削減の思い切った提案がほしい」と応じました。

## 教員不足

臨時免許で家庭科を教えている学校の現状や、管理職に懇願されて非常勤講師を引き受けたものの、事務的な負担を強いられるなど、単に時間単価についての**賃金問題だけでなく、処遇に関する問題を伝え、改善を求めました**。

また、當山佐中夜間分会長（青年部代表）は、男性女性共にワークライフバランスを取れる生活を望む人たちが増え、働き方改革や長時間労働是正が進まなければ、そもそも長崎県が選択肢にならないことや非常勤講師への冷遇から、長崎県をやめて都会の受かるところを選んでいく状況を生々しく伝えました。

教育長は「**やりがいを感じ、教師を志したのに、採用のところで苦勞している。その辺りに課題があるので、もう少し光を当てたい。苦勞している講師にどんな対策ができるか、検討したい**」と講師の待遇改善に触れ、さらに「現場の実情を知りたい。子ども達に良い環境を整えたいという方向は高教組と同じだと思っている。色々な課題を乗り越えるための提案をいただければありがたい」と答えました。

高教組では、今後の長崎県の教育を担う若い教職員の声を集める青年部も組織しています。青年部同士の交流や県教委との交渉が可能です。最終的に教職員が働きやすい職場環境は、子どもの教育に寄与することになります。あなたも長崎高教組に入りましょう